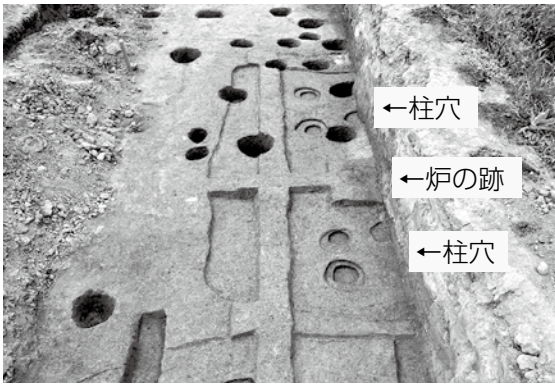


発掘調査による新成果

「高島市歴史散歩No.140」では、JR新旭駅周辺に所在する下花貝遺跡と堀川遺跡の調査成果を紹介しました。今回は、平成28年5月から発掘調査を実施した下花貝遺跡の最新情報を報告します。

今回の調査は、市役所南側で道路改良事業に伴い道路が拡幅される場所を対象に実施した調査で、地表面から下へ約1mから1.5mの深さまで掘り下げたところから、**竪穴建物**、**掘立柱建物**、**柱穴**、**土坑**（柱穴よりも大きな穴の跡）、溝などの遺構を確認しました。



竪穴建物

下花貝遺跡の

最新情報

竪穴建物に残る炉の跡

これらの遺構のうち竪穴建物の形状については、炭混じりの砂質土が方形状に見られました。この建物は、新しい時期の溝で切断されていました。炭混じりと焼けた土の所があることから、この場所が炉の跡であることがわかりました。



出土遺物

炉については写真の四角形の部分にありました。この建物の柱位置については、両側から2つずつ柱（◎の部分）が近接して見つかっています。今後、類例から柱構造を検討していきたいと思えます。この写真の隣からも竪穴建物を確認できました。この建物内の土坑からは、煮炊き跡が残る土師器の「かめ」や須恵器の「坏身」が出土しました。

遺物から分かる食生活

次に出土遺物については、土師器（かめ・高坏）、須恵器（坏身・かめ・はそう）、瀬戸美濃（天目茶碗）、信楽（すり鉢）などがありました。これら遺物のほとんどは、破片で出土しました。その一方、先ほど紹介した竪穴建物から出土した土師器や須恵器は、土器

の形（器形）がわかるぐらい残りがよいものや大きな破片があったことから、古墳時代（現在から1400年から1500年前）のものともわかりました。この他に、魚とりに使用する網に結び付けていた「土すい・石すい」の出土があり、古墳時代の食生活の様子を知る資料が見られました。今後、図面や出土遺物の資料の整理を進めていくことで、下花貝遺跡の様相が明らかになっていくと考えます。

図文化財課

☎(32) 4467

編集感

10月は市内各地でイベントが多数開催されており、取材として「Blue Green Fes」と「2016びわ湖高島栗マラソン」の会場を訪れました。両イベントとも天候に恵まれ、各地で市外から来られた方が楽しそうに過ごされている様子を見かけました。高島には山あり、川あり、湖あり、メタセコイア並木あり、トレイルコースありと、本当に魅力的な自然が揃っています。これらの魅力をみなさんと一緒に市内外へ発信できるように、これからも広報担当頑張ります！（H）